

第七十八回「本郷ふじやま公園古民家歴史部会」「古都鎌倉」歴史探訪

「Ⅲ」6月6日（木）極楽寺・成就院・極楽寺

（集合；JR横須賀線「鎌倉駅」西改札口9時50厳守）

行程；江ノ電「鎌倉駅」→「極楽寺駅」→極楽寺→成就院→極楽寺切通し→虚空蔵堂→星の井→御霊神社。

食事場所；参考、長谷寺参道入り口「浅草染太郎鎌倉」お好み焼き店・

T E L ； 0467—22—8694。

- 1・極楽寺（真言律宗西大寺末・霊鷲山感応院・本尊，釈迦如来立像，重文秘仏清涼寺式釈迦如来像インド，中国をへて伝わったと言う，4月7～9日公開・宝物館特別拝観300円他要予約・什宝釈迦如来坐像，十大弟子像，不動明王像，密教法具，伝忍公塔納置品，忍性塔，薬師如来像，文殊菩薩像，興正菩薩像，石塔，古文書他）

執権北条義時の子重時が尊敬する忍性に相談し，地獄谷と言われる此の地に正元元年（1259）に造られたと言う。重時は寺の完成待たずに死去したが，その子長時，業時が力を合わせ継続し，忍性入山の後七堂伽藍・49院を備えた大寺院の造営が整った。二重屋根の金銅，13重の塔等，沢山の塔が立つ壮大な古い絵図が描かれて寺に伝わっている。しかし，元弘元年（1333）寺は焼け，その後何度か火災，地震，台風等で崩れ落ち，現在は一つ残る吉祥院が本堂となっているのみ。当寺の境内は稲村ヶ崎小学校や住宅地帯に変わっている。大師堂，宝物館（転法輪殿テンポウリンテン・土，日公開）・八重一重咲き分け山桜・背後山腹の奥の院（五輪塔，忍性の墓，国重文，非公開），三世順忍墓忍公塔，北条重時墓宝篋印塔・栄真坐像・忍性像・新田義貞鎌倉攻めに使われたという陣太鼓の胴。

- 2・上杉憲方の西方寺跡（江ノ電線路上に架かる桜橋手前路地入り口に石碑・四面に金剛界四仏刻7層の多層塔＝伝上杉憲方の墓，五輪塔＝その妻の墓と伝う）

室町幕府は地方の力をおさえるために役所を置き，関東地方支配の役所を鎌倉府（関東府）と呼び，その長である鎌倉公方を助けて仕事をする執事，後に関東管領と言われた。上杉憲方は山ノ内上杉の出で鎌倉公方足利氏満に仕え関東管領を務めた。晩年，仕事を子の憲孝に譲り出家し道号（明月院開いた）と呼ばれた。西方寺跡（立入不可・坂道反対側人家の裏山際に六つの五輪塔，宝篋印塔永和5年＝1379銘）

- 3・成就院（真言宗大覚寺派・33観音第21番）

弘法大師が護摩を焚いたという場所に，1219年（承久1）三代執権北条泰時が創建。相模国風土記によれば，1333年（元弘3）鎌倉幕府の攻防戦で境内が踏み荒らされ，一時別の場所へ移っていたが，江戸時代に現在地へ再建されたと言う。花便り；夏」アジサイ、海岸の眺めが美しい。

4・極楽寺切通し（その頃の道は成就院の高さ位だったと言う・鎌倉七口・七里ヶ浜―藤沢―京都への出入口）

北条重時が晩年、念仏生活に入るための極楽寺を建てこの土地を領有していたが、この事は鎌倉を守る政治的・軍略的な実用があったのでしょう。鎌倉幕府滅亡の際の古戦場として有名な所。元弘元年（1333）新田義貞が鎌倉に攻め込む時、この切通しには大館宗氏（オダタムネジ）が大将として10万の兵を進めた。一度は北条方が敗れましたがすぐ押し返され、大館宗氏一族以下は戦死、新田義貞は5月21日夜、すぐさま駆けつけて月の光にすかしてみると、切通しには北条方の砦が山の高い所まで築かれ、数万の兵士がひしめいて攻めににくい事を悟り、南稲村ヶ崎にまわったと伝う。

5・虚空蔵堂（星見堂・福德，知恵の仏様・本尊，虚空蔵菩薩，秘仏，毎年1月13日開帳受験生に人気）

新田勢の攻撃に対して、強固な木戸で切通しを閉ざし、数万の兵力によってここからの進入を防いだ合戦場。その頃の切通しは、成就院の門前を通る、傾斜が急な細い崖道だったと言う。極楽寺板碑。

舟守地蔵（堂左手前・船の台座に乗った地蔵・海上安全）

6・星の井（鎌倉十井・星月夜ノ井・星月ノ井・昔，昼なお暗く山深い所で昼でも星が輝いて見えた事からか？）

昔の旅人が極楽寺坂を越えた後、この井戸の水を飲み一休みした様子が浮かびます。水道が普及するまではこの水はよく使われ、道行く人に売られたそうです。「われひとり かまくら山を こえゆけば 星月夜こそ うれしかりけれ」藤原公任（ワトリ・平安時代歌人）

7・御霊神社（祭神，鎌倉権五郎景正・鎌倉七福神福祿寿・屋根の金色の2枚の矢羽根は景正の紋章＝社紋・拝殿の後の彫刻は本殿より立派な造り・祭礼，面掛行列9月18日・収蔵庫100円、団体80円・紫陽花の小路）

後3年の役で活躍した鎌倉権五郎景正を祀り、地元では「権五郎さま」と呼ばれ親しまれている神社。毎年9月18日行われる面掛行列が有名で、その際に10人集がつける仮面が境内の宝物殿に保管されている。御霊神社は土地の神社で各地にある。桓武天皇の子孫，平良兼（タラノヨシカネ）の孫，村岡五郎忠通（タダミチ）という人の子に為通（タミチ），景茂，景村，景通，景正の5人があり，5家に分かれた。忠通死後，5家が栄えるようにと鎌倉に社を建て忠通と5家の祖先を祀り，御霊の神とか，5霊の神として尊敬してきたと言う。一説には，鎌倉，梶原，村岡，長尾，大庭の5平氏を祀るとも言われ，これらの本拠地に御霊神社が残っている。景正があまりにも武勇に優れ，又，この辺りの領地を開いた事から景正だけが祭神とされるようになったようです。石上神社・庚申塔。

☆歳時記；1／13 護摩焚き供養・7／20 石上さま祭礼・9／18 面掛行列。

☆老木；境内のタブの木（神奈川名木 100 選・市指定天然記念物）・銀杏の木。

☆石上神社（御霊神社社殿右側小さな石鳥居正面小さな社・石上さま・祭礼 7 月 25 日前後の日曜日）

此の石は坂下の前浜の海中にあったのを土地の人が引き上げ、二つに割った上部を御霊神社の境内に祀ったと言う。昔、沖に岩石が突き出していた。満潮時には海中にかくれ、度々船が乗り上げて沈み、人命が奪われる事が有りました。これを海神の怒りと考え、祠を建てて石上神社とし、海神の霊を祀ったと言う。

祭礼には土地の若者が赤飯を持って泳いで海中に残っている岩の部分（沖合約 2 km）まで行き、供え物を海神に捧げる「御供流し」をする。今の海開きにあたる行事となったようです。

☆面掛行列（腹みっと行列・子孫繁栄、幸せを招く、豊作を祝う）

権五郎景正の命日（9／18）で、12 日から行われるが、18 日は面掛行列（県指定無形民族文化財）が行われる。爺（ジイ）・ひょっとこ・福祿寿・おかめ・鬼・鼻長など十の伎楽（ギガキ・古代寺院外供養舞）に使われるような仮面をつけて神輿の前を練り歩きます。昔、頼朝がある娘をかわいがり、みごもった娘の姿に仮装させ、街中を歩く事を許した事に由来すると言う。行列に一人だけ、おかめの面を付け美しい着物を着た女性の姿をした人がいる。お腹をふくらませ子どもをやどしたかっこうをしている。すぐ後ろに天冠（テンカン）という冠をつけた女性（産婆）が扇子で仰ぎながらついて行きます。鶴岡八幡宮の神幸（シヨウ）に楽人と共に「面掛十人」が加わっていた事が江戸時代後期の記録にあり、その後、面掛行列として御霊神社の祭礼に引き継がれていったと言う。

8・長谷寺（長谷観音・単立、＜浄土宗＞・海光山・本尊十一面観音懸仏・坂東 33 観音第 4 番霊場・寺宝銅鐘重文、宝篋印塔陽刻板碑重美・拝観料 300 円）

養老元年（717）、徳道が 2 体の観音像を造り、1 体は大和長谷寺に安置、他の 1 体は有縁の地に奉安しようと海に投げ入れた。十数年後経て天平 8 年（736）相模国長井村に漂着、聖武天皇勅して 1 宇を創建せしめ観音像を、安置新長谷寺と称し徳道開山と伝う後現在地に移したのが現本尊。本尊の十一面観音は高さ 9.18 m で、木造仏像日本最大。観音堂が立っている平地からは鎌倉の海や長谷の町並み、三浦半島まで望む事が出来る。高山樗牛（チウキウ）居住記念碑・高浜虚子句碑・大野万木句碑・久米正雄胸像・宝物館（梵鐘・懸仏・大黒天）。

☆国指定文化財等；銅造十一面観音懸仏（重文国宝館）・長谷寺縁起上中 2 巻（国宝館）。

☆名仏像；木造長谷観音 9 m（奈良長谷寺同様式 1 本の楠から造られ、木の本奈良、木の末長谷、名工稽文会）。

☆花便り；夏」アジサイ・冬」梅。

☆名鐘；1264年（文永元）銘物部季重の作、総高 167.6 c m。

☆歳時記；8月／10日・4万6千日詣り。

☆高浜虚子；明治7年愛媛県松山市生、本名清。伊予中学から仙台二高に入学するも中退し、正岡子規に師事、明治29年「国民新聞」の俳句選者となった。後に「ホトトギス」を主宰（サ）して、句作、俳論のほか小説にも力を注ぎ、広い文学活動、俳人の育成に尽力した。明治43年由比ヶ浜に移住、以後昭和34年84才没まで鎌倉に住んだ。芸術院会員在籍・文化勲章受ける。虚子一家は高浜年尾、星野立子、高木晴子、上野章子など子女それぞれ俳句の道に活躍した事でも知られる。「永き日のわかれが為めの観世音」虚子。

☆大野万木（政治家大野伴睦）；明治23年岐阜県生、明大中退、政友会、院外団に入り、東京市議会議員を経て昭和5年以来岐阜1区衆議院議員当選13回。戦後日本自由党結成に加わり、昭和27年衆議院議長、第五次吉田内閣の国務相、三木武吉と自由民主党結成、義理人情を重んずる政治家として知られたが、昭和39年74才没。「観音の慈顔尊し春の雨」万木。碑の裏の撰文を書いた風生は俳人富安風生、明治39年愛知県生、東京帝大卒、逓信次官、退官後、俳人として活躍、特に高浜虚子に師事、「ホトトギス」で活躍、昭和54年94才没。句集「草の花」昭和8年・「十三夜」同12年・「朴若葉」同25年・「晩涼」同30年等。

☆久米正雄像；小説家、劇作家、三汀と号する俳人（文人）で、東京帝大英文科入校。大正3年同志と第三次「新思潮」を創刊、これに戯曲「牛乳屋の兄弟」を発表して認められ、芥川龍之介と共に夏目漱石門下となった。大正8年文芸雑誌「人間」を創刊。この頃、菊池寛とともに鎌倉長谷・御成門・二階堂に移住多彩な活動を行い、鎌倉文士の中心的存在となった。60才没。著作戯曲「地藏教由来」大正6年・短編小説「受験生の手記」同7年・長編小説「破船」同11年・句集「三汀句集」同3年・「二階堂放話」昭和10年等。

☆高山樗牛（樗牛ヲギ ユウ高山林次郎）；明治4年山形県生、明治26年東京帝大文学科入校、在学中に、読売新聞の懸賞小説で「滝口入道」が入選し、一躍文名を上げた。同28年同志と「帝国文学」発行、翌年大学卒業、第2高等学校教授、まもなく辞職、同30年雑誌「太陽」の主宰。病弱のため主幹を辞し、大町桂月に譲り、扇ガ谷の栗山に師子王文庫を開いた、日蓮学者の田中智学を訪ねて話し合い、日蓮研究を志して、長谷寺境内にあった慈眼院に妻子と共に移住した。翌35年2月同寺境内の隣地に家を新築して移った。しかしこの年の秋、病気が進み、平塚の杏雲堂病院に入したが、12月、32才で没。

以上